

早春の空のもと、澄みきった空気が漂う この佳き日に、
第七十四回卒業証書授与式を挙行できますことを、教職員を
代表して心より御礼申し上げます。

三年前に、大きな希望と夢を抱いて本校の門をくぐった皆さんが、「穏健中正」の立学の精神のもと、三年間の教育課程を修了し、本日晴れて、この学び舎を巣立つことになりました。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。心より祝福いたします。また、これまで、ご子女の成長を見守り、支えてこられた保護者、ご家族の皆様にご心よりお喜びを申し上げます。

皆さんは、この三年間、本校の伝統の中で、学業に精進するとともに、多様な経験を重ね、それぞれが自分の目指すべき道を歩んできました。名城オリンピックや文化祭などの学校行事では、本校の新たな文化を創り出し、部活動や生徒会活動では、目的に向かって仲間と協力することの大切さを、後ろ姿で後輩たちに教えてくれました。本当にありがとうございます。

皆さんが入学した平成三十一年は、五月一日から元号が令

和に変わり、新しい時代の到来を感じました。名城大学終身教授の吉野彰先生がノーベル化学賞を受賞されるという、私たち名城ファミリーにとって、とても嬉しいニュースがありました。

令和二年は、新型コロナウイルスの世界的な流行により、社会全体に大きな変化が起こりました。学校においても感染防止の対策を常に心掛けながら、学びを止めないために、工夫を凝らした一年となりました。

令和三年は東京オリンピックおよび東京パラリンピックが行われました。多くの日本人選手が大活躍をし、表彰台では、メダルを片手に、もう一方の手には、東日本大震災の被災地域で育てられた復興の証ともいえる花束を掲げ、満面の笑みを浮かべている姿がとても印象的でした。皆さんと同じ世代の選手の活躍も目覚ましいものでした。好きなことを、真面目に、楽しんでいる姿がとても輝いて見えました。また、パラリンピックにおいては、さまざまな種類の障がいを抱えた選手たちのひたむきな取り組みに感動を覚えました。障がいを言い訳に

せず、自身の限界をも超える。パフォーマンスを見せてくれました。できない理由をさがすのではなく、できることに懸命に取り組むことの大切さを改めて感じました。車いすテニスで金メダルを獲得した国枝慎吾さんは、あるインタビューで次のように述べています。

「何事も小さな違いが、大きな違いを生むので、少しの変化が大きく自分の能力を飛躍させる。何かを常に模索し続けることが、その人の成長につながる」と。

先月二十四日、ロシアはウクライナに対する軍事侵攻を開始し、いままも戦闘が続いています。兵士のみならず多くの市民が犠牲になっています。日本の商船も攻撃の被害に遭いました。戦争が始まると物流が不安定になり、エネルギー価格が上昇し、サイバー攻撃が増えます。原因はまだ究明中ですが、サイバー攻撃の影響により本日はトヨタ自動車の国内の全ての工場が稼働停止となっています。

他国の戦争は決して他人事ではありません。世界がひとつにつながったグローバル社会において、戦争が世界に与える影響

は計り知れないのです。皆さんには、本校で学んだことを活かして、社会の諸問題を解決するために活躍してほしい、世界の平和を強く願う人になってほしいと強く望みます。

今日の佳き日を新たなスタートとして、皆さん一人ひとりが、高い見識を持ち、思いやりの心を忘れることなく、自分の夢の実現のために、挑戦し続けてください。皆さんは、二十一世紀の主役です。将来に不安をもつのではなく、よりよい未来を創ってください。人生のいかなる時も、希望を持ち、明るく前向きな人生を歩まれることを、心から願います。

あとになりましたが、保護者の皆様におかれましては、入学以来、ご子女の学校生活にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。本日、晴れて卒業の日を迎えられましたこと、さぞかしご安堵のことと拝察し、心よりお喜び申し上げます。

結びにあたり、本日ご臨席を賜りましたPTA役員、同窓会役員の皆様方が、これまで本校に寄せられました数々のご支援に対しまして、心から厚く御礼申し上げます。

ここに、第七十四回卒業生の前途を祝福するとともに、ご参
会の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、式辞とい
たします。

令和四年三月一日

名城大学附属高等学校長 伊藤憲人